



さ の とし お
佐野 寿夫
(公明会)

環境
都市整備
保健福祉

クマ出没の現状と市民の安全対策について

問 クマ出没の現状と不安を減らす対応は。

部長 クマ出没は昨年と比較し開きはないが、内房地区などの人の日常生活圏への出没が頻発した点が、例年とは異なる特徴である。広報車や消防本部、消防団の協力を得て巡回を行った。また、猟友会の協力を得て箱わなを設置した。



問 箱わなとハンターの現状は。

部長 箱わなは市に1基と、借用が1基、交付金を活用し追加で2基購入する。富士宮猟友会と西富士山麓猟友会があり、会員数は2つの猟

友会を合わせて約150人である。

問 小中学校の危機管理マニュアルは。

教育長 内房小学校で新たに作成したクマ出没時等における対応マニュアルを、市内の小中学校が参考にできるように共有している。

水久保池周辺の現状と対応について

問 土砂や落ち葉で埋もれた側溝への対応は。

部長 優先順位をつけて対応する。

相談支援セルフプランの利用状況について

問 静岡県下でのセルフプラン利用率は。

部長 令和6年度は18歳以上が3番目に、18歳未満が11番目に高い状況である。

問 本市としての評価は。

部長 本市としては、セルフプランの提出も可能としながら、相談支援専門員によるサービス等利用計画の作成を基本とするため、専門員を増やすための支援策を検討している。

セルフプランとは

障害福祉サービスの利用計画を利用者本人やその家族が作成すること。



う え ま つ けん い ち
植松 健一
(至誠)

教 育

クマ対策について

問 内房小学校で現在行っている対策及び、今後の市内各小中学校における対策の必要性について。



部長 クマ出没時等における対応マニュアルを作成し、それに基づき対応を行っている。目撃情報が学校周辺で確認された場合は、保護者による登下校時の車での送迎、校舎1階の施錠の徹底、体育の授業や休み時間におけるグラウンド使用の自粛を行っている。状況に応じて、複数の教職員による見守りを行いながら、体育館への移動、グラウンドでの体育の授業や休み時間の外遊びを実施するなど、臨機応変に対応している。また、市内各小中学校においても、内房小学校と同様にクマ対策を進めている。具体的には、クマの目撃情報があつた際には、本市

教育委員会より早急に学区内の小中学校へは電話で、その他小中学校にはメールで連絡が入る。その情報に基づいて、こどもたちが安全に登下校できるよう保護者にメール配信を行ったり、休み時間の過ごし方や部活動を安全に実施するための対応を取っていく。

小中学校PTAについて

問 日本PTA全国協議会は

PTAを社会教育団体であると自認している。社会教育の場、生涯学習の場としての活動をもっとお願いしてはどうか。

教育長 今までは学校をサポートするという立場が前面に出ていたが、社会教育を推進する役割を担うということで、やはり保護者同士の学び合いとか地域での活動、こどもの健全な成長を支援する活動などが今後PTAとしての存在意義としてより一層濃くなると思うので、ぜひ学校教育、社会教育にも御協力いただければと思っている。

